

標準委員会 第5回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2009年11月20日（金） 10：00～11：45
2. 場 所 日本原子力発電(株) 本店第2会議室
3. 出席者（敬称略）
 - （出席委員） 岡本（部会長），萩原（副部会長），吉田（幹事），越塚，山口，岩崎，堀田，石塚，西田，大山，青木，沼田（邦），宮坂（13名）
 - （代理出席委員）大島（堺代理），坂本（平山代理），落合（上野代理），東（浦上代理）（4名）
 - （欠席委員） 市川，木下，沼田（博），笠原，山内（5名）
 - （常時参加者） （0名）
 - （傍聴者） 石川（智）（1名）
 - （事務局） 岡村

4. 配付資料

配付資料

- ATC5-1 前回議事録（案）
- ATC5-2 人事について
- ATC5-3-1 「放射線遮へい計算のための線量換算係数：200〇（改定案）」決議投票の結果について
- ATC5-3-2 放射線遮へい計算のための線量換算係数（改訂案）（書面投票）への委員コメント対応について
- ATC5-3-3 現行標準との比較表
- ATC5-3-4 日本原子力学会標準「放射線遮へい計算のための線量換算係数」（改定案）
- ATC5-4 シミュレーションの信頼性検討タスク報告書
- ATC5-5 有効高さ評価モデル分科会の活動状況
- ATC5-6 公衆審査異議申し立て対応結果（風洞実験実施基準）

参考資料

- ATC5-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
- ATC5-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員22名中、代理委員を含めて17名が出席しており、成立に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC5-1）

前回議事録（案）については、事前に送付済みであり承認された。

(2) 人事について (ATC5-2)

①専門部会

- ・人事案件なし

②分科会

- ・委員の退任

有効高さ評価モデル分科会

永井 清之 (石川島播磨重工業 (株))

- ・新委員の選任

有効高さ評価モデル分科会

河井 理文 (石川島播磨重工業 (株))

審議の結果、新委員 1 名の選任が承認された。

(3) 「放射線遮へい計算のための線量換算係数 (改定版)」 (案) 書面投票結果と対応について (ATC5-3-1~4)

事務局より、資料ATC5-3-1に基づき、「放射線遮へい計算のための線量換算係数 (改定版)」 (案) が可決されたことが報告された後、放射線遮蔽分科会の坂本副主査より、資料ATC5-3-2~4を用いて書面投票におけるコメント対応方針並びに標準の変更部分について説明が行われ、一部修正及び再度チェックをすることを条件として12月11日の標準委員会に本報告することが決議された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 解説の冒頭の文章で、5年が経過したことから改定するとなっているが、必要があれば毎年改定するし、必要がなければ5年経過しても改定しないものもある。5年経過したから改定するのではなく、5年経過して新たな知見等を反映する必要があるからではないのか。
 - 修文する。
 - コメントに対応して修正した部分が削除されずに残っている。併せて修正すること。
- ・ 定義のところの語尾は、“である”ではなく、体言止めが良い。
- ・ 引用規格に関して、引用部分を書くこと並びに引用規格とこの標準が異なる部分を明記すべきとのコメントに対し、回答が合っていないのではないのか。
 - 引用規格は、規格の一部を構成するものであるが、引用部分を書くのであれば引用規格ではなくなるのではないのか。また、通常異なる部分を書くようなことはない。本規格に記載されていない部分は引用規格に従うということであり特に問題はないのではないのか。
- ・ 単位系がSIではないことについて、ICRPに準拠していることを解説に追記して欲しい。
- ・ 他の専門部会にも関係のあるコメントについては、議事録の回付等情報を流すこと。
- ・ 本日コメントのあった部分について修正したコメント対応票を、標準委員会前に委員に送付すること。
- ・ 再度コメント反映部分のチェックを行うこと。

(4) シミュレーションの信頼性タスクの報告

タスク主査の越塚委員より、資料ATC5-4に基づき、「シミュレーションの信頼性タスク」における調査、審議の結果が報告され、さらに今後、部会に専門委員会を設置して検討を継続するとの提案が報告された。審議の結果、早急に研究専門委員会を立ち上げ、1年程度をかけて報告をまとめた時点で再度標準化について審議することとなった。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ シミュレーションの信頼性確保のための標準としては、具体的なものから立地審査指針のように考え方のみを述べるものまで様々なレベルがあるが、求めているのは基本的な考え方。ガイドラインのようなものであっても作成は難しいのか。
 - 大枠であっても、研究者、技術者の中で合意を得るのが難しい。また、抽象的過ぎると議論が難しいので、まずは報告書として文書のイメージを作りたい。期間は1年程度をイメージしている。
 - トップダウンだと分かりにくいものになる。ASMEのV&Vを見ると、そこそこ大まかに、具体的なものも少しあるが、背景を知らないと理解が難しい。現場からのボトムアップ的な材料集めも必要。もうひとつ、これまでに海外等で作成されたものは、比較的具体的で分かりやすい分野。原子力が対象とする分野は、例外的なものが多く難しさもある。
- ・ V&Vを議論し始めると、ソフトウェア全般となってきて、プラントのデジタル系や耐震なども入ってくる。それらを含めて上に立つものを作るとなると、もっと広い範囲を見ておく必要があるとの結論となった。
 - 今回の議論は、いろいろな分野にまたがるものにしようとなっており、これは世界にもない。
 - むしろ日本の原子力学会で作ったものを英文化して出せると良い。
 - 米国でも同様の議論が始まっており、遅れないように検討を進めたいと考えている。
- ・ 計算科学技術部会を担当部会として特別専門委員会とすることも考えられる。資金面を含めて検討していただきたい。
 - タスクに参加していただいた方には引き続き参加いただきたい。
- ・ 今回は、計算科学技術部会で担当するが、ほとんど全ての部会が関連する。広く声をかけて行うところが難しい。
- ・ 遅くとも1月の企画委員会に提案して欲しい。

(5) 有効高さ評価モデル分科会の活動状況 (ATC5-5)

有効高さ評価モデル分科会の分科会代表者である沼田（邦）委員より、資料ATC5-5に基づき分科会の活動状況が報告された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 本分科会の活動は、V&Vをやる上で境界条件等しっかり把握しており、良い活動が行われている。
- ・ 研究専門委員会と連携して進めていただきたい。

(6) 公衆審査異議申し立て対応結果 (ATC5-6)

事務局より、資料ATC5-6に基づき、「原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準」の公衆審査に係る異議申し立てへの対応結果並びに意見提出者からの資料の公開、異議申し立て手続き等への要望事項が報告された。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 学会は国と異なり、資料の公表等は、費用的な問題を主張しても良いと思う。
- ・ 審議中の資料については、著作権の問題もある。
- ・ 異議申し立ての妥当性とはどういう意味か。
 - 些細なことで、異議申し立てが乱発されるのを防ぐため、①法令への不適合、② 制定手続きの不備、③社会の安全などの公益に反しているといった異議申し立ての要件を定めたもの。
 - 妥当ではなく該当。
- ・ 詳細な議事録が公開されていないという指摘があるが、傍聴を許可しているので必ずしも指摘は当たらないと思う。
 - 標準委員会への報告にあたっては本日の意見を考慮して欲しい。

(7) 標準委員会の活動状況について (ATC5-参考2～3)

事務局より、ATC5-参考2に基づき、標準委員会の活動状況が報告された。

(8) その他

次回専門部会は、2月末頃とし、別途日程調整を行うこととした。

その他にあった意見等は以下の通り。

- ・ 規制に関わる検討は、学会の中で行われているのか。
 - 法制検討会にて行われている。
 - 利用率が低いのが問題である。学会としても貢献すべき分野と考えている。

以上